

公立・私立、幼稚園・保育所（園）の 園長・担任・保護者を対象とした 「保育に関する意識調査」

（中間報告）

2009年5月報告書発行予定

2009年2月9日

ごあいさつ

日頃より、幼児教育支援事業にご理解ご支援いただきまして、誠にありがとうございます。

ソニー教育財団では、保育者や保護者の保育意識の経年変化をみるために、2002年に引き続き昨年6月に再調査を実施いたしました。

この調査結果は、幼児教育の現状把握、及び資質向上を図るための基礎資料になるものと考えております。

本中間報告は、簡略版になっておりますが、5月には「報告書」が完成する予定です。

今後とも、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

【調査概要】

目的

2002年に保育者(園長・所長、学級担任)と保護者を対象に、保育観、保育内容についての期待と実践度(満足度)など保育に関する意識調査を行った。

その後、幼児や園を取り巻く状況や社会の変化、保育所保育指針・幼稚園教育要領の改訂などがあった。そこでこの度、前回からの意識の変化と現状を把握するために、第2回目の調査を実施した。

調査方法

7都道府県の、公立・私立の幼稚園・保育所(園)における園長・所長、学級担任(3～5歳児)保護者(3～5歳児)の三者を対象とし、各園に郵送にてアンケート調査を依頼。

827園中、211園より回答あり。有効サンプル数 2,012件。

調査内容

園長・担任・保護者に共通の質問内容とし、それぞれ当てはまり度を5段階で評価。質問内容は、以下の通りである。(本中間報告は、③～⑥の質問内容からの抜粋)

- ①保護者が子どもを園に通わせている理由(6項目)
- ②保護者が園を選ぶ基準(23項目)
- ③保護者が現在の園に期待している保育内容(32項目)
- ④現在の園における保育内容に対する実践度と満足度(各32項目)
- ⑤保育や教育についての意識(26項目)
- ⑥「科学する心を育てる」という言葉のイメージ(自由回答)

調査上の留意点

- ・6年間の経年比較を見るため、2002年の実施時と調査方法・内容とも同様であることを基本とする。
- ・但し、質問項目に「道徳性」「食育」「環境教育」など、今日的課題となる内容を一部加える。

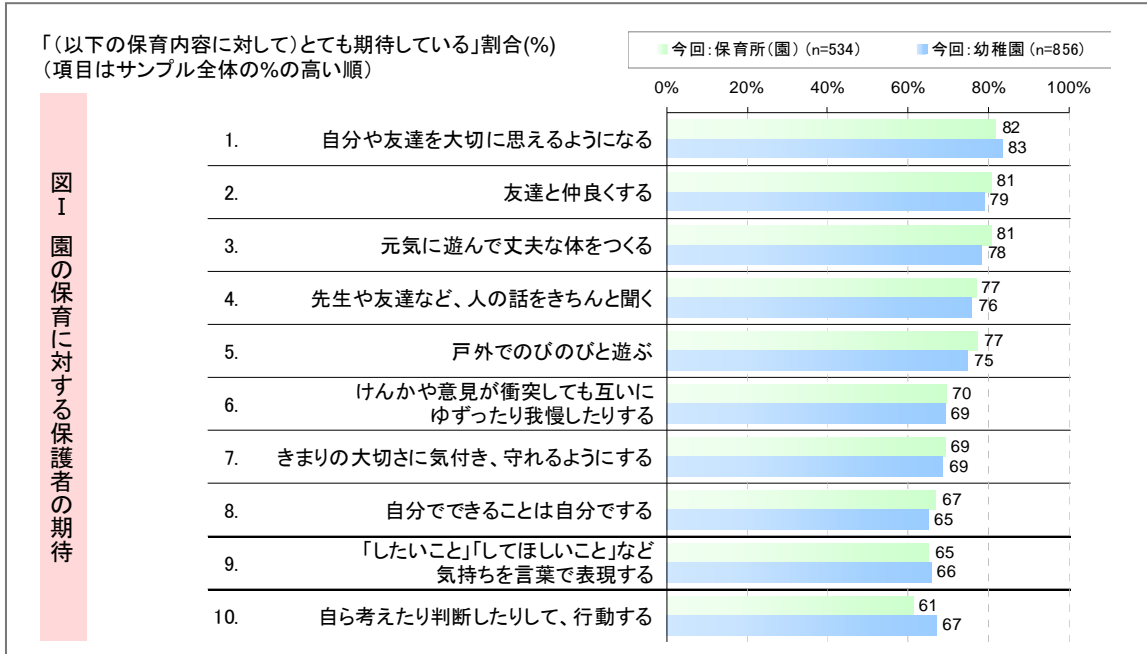


保護者の保育に対する「期待」と「満足」

□保護者の保育に対する「期待」

幼稚園も保育所(園)も、共通して期待が高い項目の上位10位までを図Iに示した。「社会性(1. 2. 4. 6. 7)」「健康(3. 5)」「自立(8. 9. 10)」に関する項目が上位で、この10項目は前回調査でも同様に上位に挙がった内容であり、依然として関心の高さが伺える。一方、前回より数値が大きく減少した項目は、下記の2項目である。 ※幼稚園・保育園の平均数値

- ・動物と触れ合い、いたわったり大切にしたりする :36% (前回 57% 21ポイント減)
- ・専門家や高齢者など、地域の方々とかかわり親しみをもつ :16% (前回 28% 12ポイント減)



図I 園の保育に対する保護者の期待

□保育に対する「期待」と「実践」「満足」

図IIは、保育者(園長・所長)の「実践している」と保護者の「満足している」の回答の割合を分布図で表したものである。「とても期待している」を縦軸に、「とても実践できている・とても満足している」を横軸に示したグラフで、実践度・満足度が期待に達している項目は対角線の下に、期待に達していない項目は上に表れる。

<園長・所長>

図II-1を見ると、対角線の右下に多くの項目が並んでおり、「保護者の期待に対して概ね実践できている」と捉えているようである。また、期待の高さを見ると、全体に保護者の期待度より低く、園に対する保護者の期待を把握しきれていないことが考えられる。

<保護者>

図II-2では多くの項目が対角線より上にあり、期待が高い項目の多くについて、満足を感じていないことがわかる。特に期待と満足のギャップが大きい項目(○内)は、

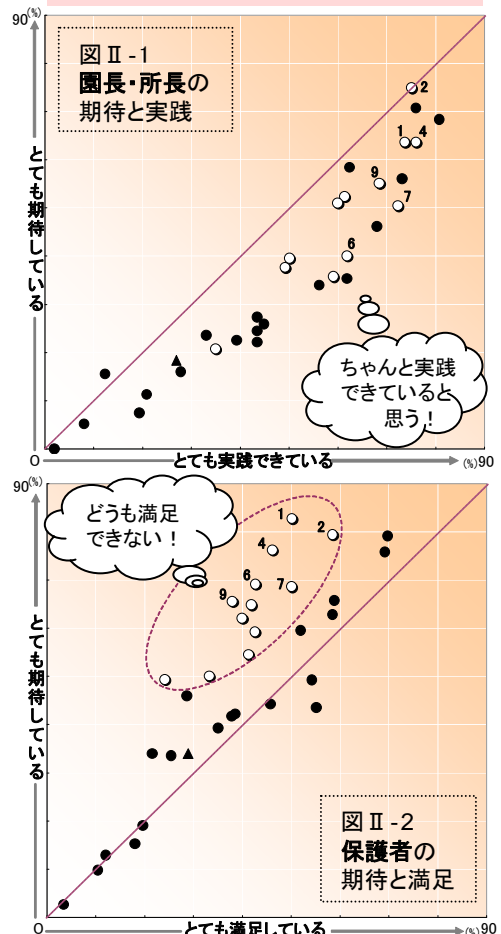
1. 自分や友達を大切に思えるようになる
2. 友達と仲良くする
4. 先生や友達など、人の話をきちんと聞く
6. けんかや意見が衝突しても互いにゆずったり我慢したりする
7. きまりの大切さに気付き、守れるようにする
9. 「したいこと」「してほしいこと」など気持ちを言葉で表現する

など、社会性に関する項目が目立つ。

一方、期待も満足も前回より数値が下がった項目は、

▲動物と触れ合い、いたわったり大切にしたりするであり、関心の低さが伺える。

図II 期待に対する実践度・満足度



保育・教育についての意識

「保育・教育について」の考え方について、それぞれの程度そう思うかを質問した。

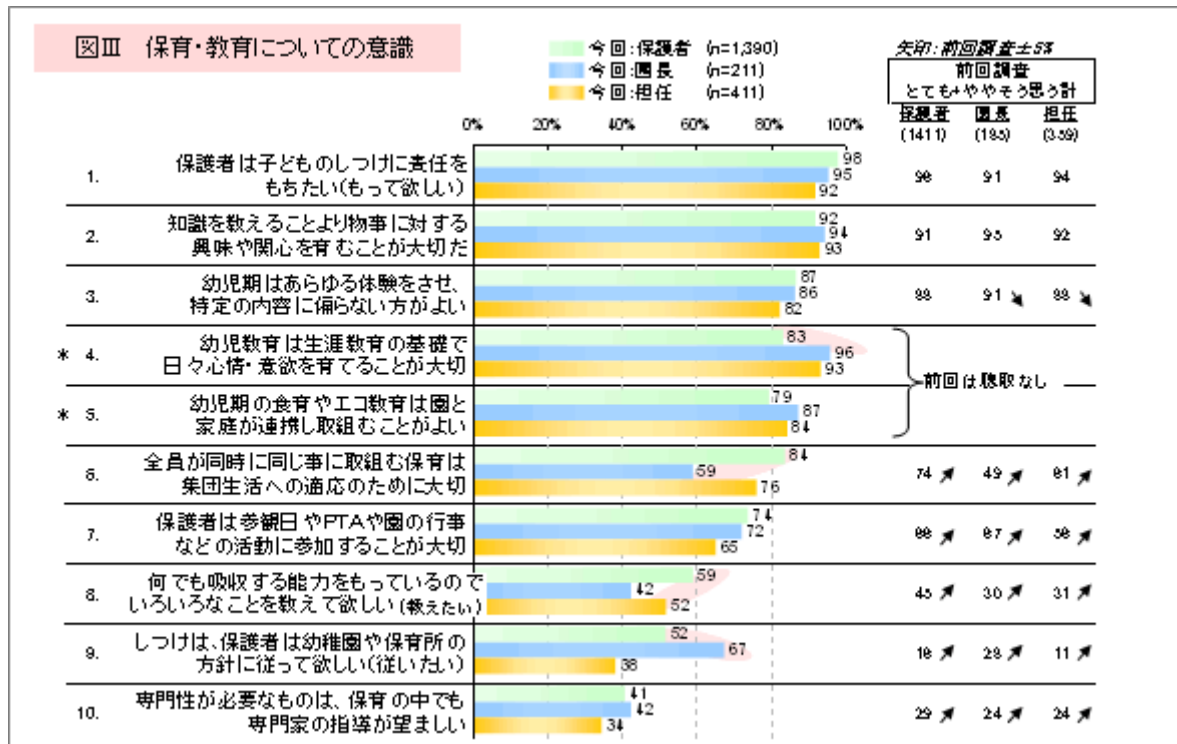
下図は、それぞれの項目に対して「とてもそう思う」「ややそう思う」いずれかに回答した人の割合を、保護者と保育者(園長・所長、担任)の三者で比較したものである。

□保護者、保育者(園長・所長、担任)ともに、「しつけ」「興味や意欲を育てる指導」についての意識が高い

保護者・保育者ともに意識が高いのは、図Ⅲの「項目1~5」である。*は、今回新たに加えた項目であり、それ以外の3項目は、前回の調査結果と同様に上位になっている。

特に、今回保護者、保育者共に前回から大きく数値が増えたのは、図Ⅲの「項目6~10」である。

前回から引き続いて高い意識に加え、今回の調査で増加した項目について、保護者、保育者ともに「しつけ」や「興味や意欲を育てる指導」が大切だと考えていることが分かる。



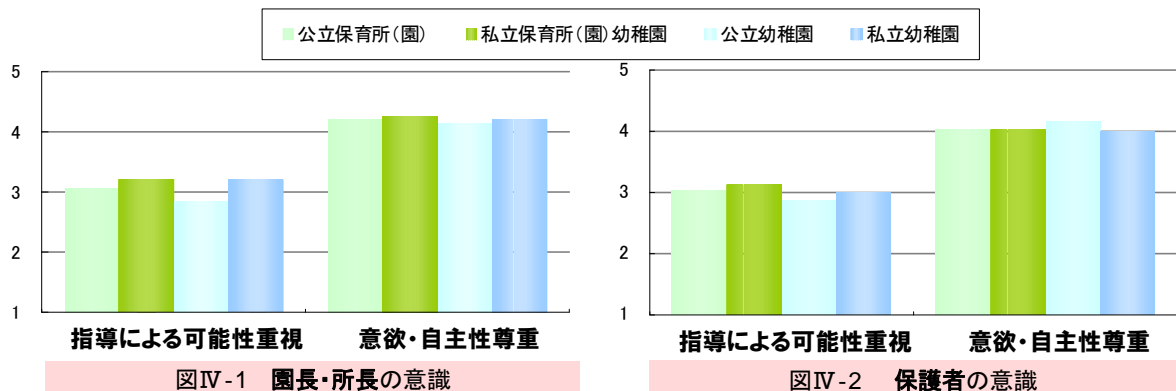
□回答結果から「保育・教育に対する意識」には2つの背景があることがわかった

<指導による可能性重視>

「園長・所長(図Ⅳ-1)」「保護者(図Ⅳ-2)」共に、保育所(園)では公立、私立で意識に大きな差は見られなかったが、幼稚園では、私立の方が、公立よりわずかではあるが、意識が高くなっている。

<意欲・自主性尊重>

園長・所長、保護者共に意識が高いことが分かった。幼稚園と保育所、園長・所長と保護者、いずれも大きな違いは見られなかった。

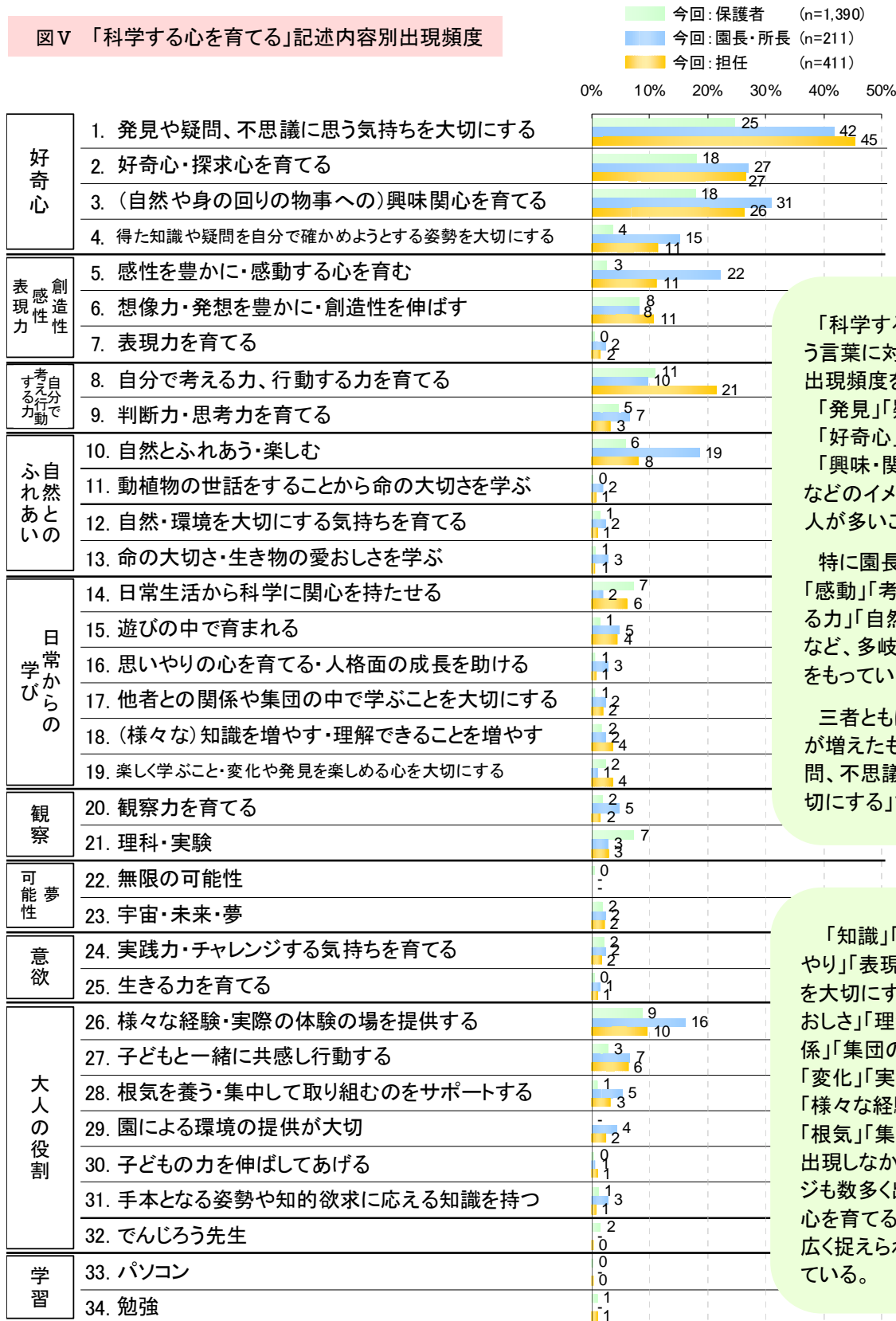


図の説明: それぞれが回答した選択肢ごとに1~5点の点数を与え、2つの要因ごとに項目をまとめて平均点を算出し、比較した図。点数は、「とてもそう思う」に5点、「ややそう思う」に4点、「どちらともいえない」に3点、「あまりそう思わない」に2点、「全くそう思わない」に1点を与えた。

「科学する心を育てる」—ことばのイメージ

「科学する心を育てる」という言葉のイメージを自由記述方式で質問した。
 下図は、単語や表現の出現パターン、意味によって分類した主なイメージの出現頻度をグラフにし、
 園長・所長、担任、保護者の三者で比較したものである。

図V 「科学する心を育てる」記述内容別出現頻度



「科学する心を育てる」という言葉に対するイメージの出現頻度を見ると、三者とも「発見」「疑問」「不思議」「好奇心」「探究心」「興味・関心」などのイメージをもっている人が多いことがわかる。

特に園長・所長は、「感性」「感動」「考える力」「行動する力」「自然との触れ合い」など、多岐にわたるイメージをもっている。

三者ともに前回より回答数が増えたものは、「発見や疑問、不思議に思う気持ちを大切に」であった。

「知識」「確かめる」「思いやり」「表現力」「自然・環境を大切に」「生き物の愛おしさ」「理解」「他者との関係」「集団の中での学び」「変化」「実践力」「チャレンジ」「様々な経験・実際の体験」「根気」「集中」など、前は出現しなかった言葉のイメージも数多く出現し、「科学する心を育てる」という言葉が、幅広く捉えられるようになってきている。